

第66回

日本伝統工芸展

金沢展



日本工芸会保持者賞
《沈金箱「梅花空木」》西 勝廣（石川）

The 66th Japan Traditional *Kogei* Exhibition

令和元年 10月25日 | 金 | → 11月4日 | 月・振休 |

会期中無休 9時30分から18時 ※最終入場は30分前まで
最終日は17時まで

観覧料 一般700円(600円) 大学生400円(300円) 65歳以上600円 高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金

主催 石川県教育委員会 日本放送協会金沢放送局 朝日新聞社 北國新聞社 公益財団法人 日本工芸会

後援 富山県教育委員会 福井県教育委員会

石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
〒920-0963 石川県 金沢市出羽町 2-1
<http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>

11月1日は「いしかわ教育の日」

11月1日から7日は「いしかわ教育ウィーク」

「いしかわ文化推進期間」協賛事業



文化財保護
強調週間
Cultural Properties Protection Week



文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan



日本工芸会総裁賞
《花文大鉢「椿」》望月 集（東京）



高松宮記念賞
《泥釉七宝花入「律」》河田貴保子（埼玉）



文部科学大臣賞
《栓拭漆三足器》甲斐幸太郎（大阪）



東京都知事賞
《沈金飾箱「一夜」》鳥毛 清（東京）

我が国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質を持ちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。

伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受け継いだ優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。

昭和25年、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。その趣旨にそって、昭和29年以来、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の七部門にわたり、日本伝統工芸展が開催されてきました。

金沢への巡回展は昭和38年の第10回展から始まり、以降は毎年開催されています。今回は全入選作品576点の内から、重要無形文化財保持者（人間国宝）や受賞者等の秀作、地元北陸の作家を中心とした入選作品342点を展示します。

展示作品解説

	11時から	13時30分から
10/26	【金工】 宮菌 士朗	【陶芸】 米田 和
10/27	【金工】 般若 保	
10/28	【漆芸】 西 勝廣	【陶芸】 武腰 潤
10/29	【染織】 毎田 健治	【木竹工】 川北 浩彦
10/30	【木竹工】 細川 毅	【人形】 紺谷 力
10/31	【染織】 山下 郁子	【陶芸】 田島 正仁
11/ 1	【染織】 二塚 長生	【陶芸】 中田 一於
11/ 2	【金工】 魚住 為楽	【漆芸】 小森 邦衛
11/ 3	【漆芸】 中野 孝一	【木竹工】 中嶋 武仁
11/ 4	【漆芸】 山岸 一男	金沢美術工芸大学学長 山崎 剛



日本工芸会会長賞
《吹分長方盤》般若泰樹（富山）



NHK 会長賞
《彩切貝蒔絵乾漆筒「月の韻」》三好かがり（神奈川）



日本工芸会奨励賞
《砂子風炉先屏風》長岡達雄（富山）



朝日新聞社賞
《生絹着物「海の中のできごと」》神谷あかね（愛知）

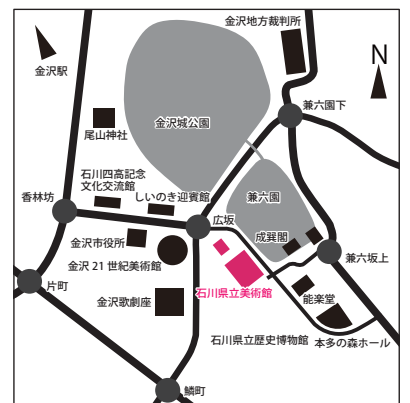
記念講演会「色鍋島・今右衛門の伝統」

日時 10月27日（日）
13時30分から15時
講師 今泉今右衛門 氏
重要無形文化財
「色絵磁器」保持者
会場 県立美術館ホール
参加無料、申込不要



テレビ放映 NHK 総合（予定）

北陸スペシャル「日本伝統工芸展」
10月25日（金）
19時30分から19時55分 石川・富山
10月27日（日）
13時5分から13時30分 石川（再）・福井



石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
〒920-0963 石川県 金沢市出羽町 2-1
TEL 076-231-7580

[自家用車] 北陸自動車道金沢西 IC または金沢森本 IC より兼六園方面へ約 30 分
[バス] JR 金沢駅東口から兼六園シャトルで 15 分「県立美術館・成巽閣」下車、徒歩約 2 分
[タクシー] JR 金沢駅から約 15 分